

# 此処彼処

ここ

かしこ

特定非営利活動法人

ふくしま支援・人と文化ネットワーク／広報誌



Vol. 18

2020年3月

## 目次

巻頭／ふくしまの光と影とは?!	1
特集／東電福島・放射能汚染の拡大とオリンピック	2.3
出前文化報告	4
ふくしま百年基金	5
ふくしまツアーレポート	6
水害被害の現状	7
information / 香織のティータイム	8

〒245-0013 横浜市泉区中田東3-16-5 <http://www.support-fukushima.net> Email:p-c-netw311@nifty.com

# ふくしまの光と影とは?!



## 東日本大震災9年後の現実

理事 郡司真弓

2011年3月11日の東日本大震災と、その後の東京電力福島第一原発事故で大きな被害を受けた福島県の人たちが孤立しないようにと願い、私たちは6か月後にこの団体NPO「ふくしま支援・人と文化ネットワーク」を設立しました。当初は、日本中の知恵、労力、財源を結集して立ち向かえば、10年後には原発事故や放射能汚染による様々な問題は解決するのではないかと考えていました。

しかし9年目になる今、放射能は今でも放出され続け、汚染土の詰まったフレコンバックは山積み、汚染水を入れたタンクは設置場所がなくてもはや限界です。そのうえ避難者の人権は無視され続け、子どもの保養は市民のボランティアに頼るありさま…。10年前に予想していた社会とは真逆の現実に愕然とします。そして2020年の春、現政権は、世界に向けて原発事故の真実を隠し、オリンピックの安心・安全をアピールするばかりです。

内堀雅雄福島県知事はこれまで「震災と原発事故からの復興の『光と影』の両方を発信するのが私の役割」と強調してきました。昨年末の定例会見でも、記者が「オリンピック開催において、知事の言う『影』はどこか?」と何度も質問をしましたが、知事は「影」については具体的に答ええず、「両方を発信する」と従来の主張を繰り返すのみでした。それを聞いた誰もが虚しさを感じたのではないのでしょうか。

2019年10月の台風19号による水害は、原発事故で苦しんでいる福島の人たちにさらに追い打ちをかける結果になりました。私が訪れたいわき市の病院では、「水害で家を失ってしまった。ようやく避難所から借り上げ住宅に移っ

たけれど、家財が何もかもなくなり、どうしたらいいのかわからない。将来が不安だ…」と高齢男性が嘆いていました。その直後のいわき市で目にしたのは、聖火ルートに不審物がないか、また不審者がいないかなど、早くも警察官が聞き込みをしている姿でした。現地の人たちはオリンピックなどよりも日常生活の再生に直面しており、オリンピックを歓迎する声はあまり聞けません。

3月には榎葉町のJヴィレッジをスタートした聖火リレーが、3日間で県内25市町村・計49ヶ所を走り抜けるといいます。脚光を浴びながら沿道を守る聖火ランナーたちの向こうには、原発事故を収束するために過酷な労働を強いられる作業員たち、主人を失ったまま朽ち果てるふるさとの家々、度重なる災害に打ちのめされ、復興から取り残された人々など、福島「影」の現実が横たわっています。そのことを忘れないでほしいと思います。

# 東電福島・放射能汚染の拡大 とオリンピック



小出裕章氏の講演を聞いて

岡田隆法（さよなら原発江戸川区連絡会）

## 東京の下町からも 脱原発の声を挙げ続ける

「東電福島・放射能汚染の拡大と『オリンピック』をテーマに、1月25日、小出裕章氏（元京都大学原子炉実験所員）の講演会が開かれた。会場は、東京の中心部ではなく、東側の江戸川区だ。東京の東部に江戸川、江東、墨田、台東、荒川、葛飾、足立の7区がある。江東区には「脱原発下町ネットワーク」という市民団体が

あり、チェルノブイリ事故の前から活動している。1980年代の放射能測定器を現在も使用して、ウクライナの子どもたちの支援運動を続けている。また、江戸川にも「さよなら原発江戸川連絡会」がある。

原発事故を受けて福島県以外でも子どもに対する甲状腺検査が必要だと思いたち、超音波診断装置（エコー検診）を自費で購入、各地で市民団体や医師と連携しながら、自主的な甲状腺検査を行っている個人もいる。私たちも江戸川区や葛飾区でも子どもの甲状腺検査をしたいということで協力いただき、2017年

から実施している。また、私たちの仲間には、南相馬市小高区に通いながら、そこで被災者の方たちに役立ちたいと鍼灸師の資格をとった人もいます。

こうした下町の運動体や個人と、「ふくしま支援・人と文化ネットワーク」の理事の一人との人的ネットワークが背景にあって、今回の講演会が実現した。上記団体は協賛という形で講演会の実現に尽力し、地区の労働組合への参加要請活動なども熱心に行った。江戸川区総合区総合文化センター・研修室での小出裕章氏の講演会は、200席の会場が一杯となった。

### 小出さんのお話の概要

## いまだ日本は 「原子力緊急事態」の なかにある

当時、福島第一原発の敷地は放射能の沼のような状態で、

今も敷地内での苦闘は続いている。汚染水の状況はタンク

貯蔵量のぎりぎりであり、中でもいわゆるトリチウム水が処理水の95%を占めている。

トリチウム水は危険な放射性物質であるが、化学的には普通の水と区別がつかないため、放射能を除去できず貯蔵するしかないが、海に流すことが考えられている。

(2020年1月31日、経産省小委員会)で海洋放出がより現実と了承された、との報道あり。

チェルノブイリ原発は石棺として現場を封鎖した。その後、老化でその上から第2石棺で覆うようになり、これからの100年先を見通した封鎖を続けている。それに比べ福島原発はその寿命を長らえさせるかのごとき対策しかしていない。福島事故で放出された放射能は、福島県東半分を中心に14000平方kmの大地を放射線管理区域(4万ベクレル/m)以上の汚染区域にしなければならないほど汚染した。その結果、9年近くたった今も膨大な量の農水産物の出荷制限が続いている。

人間には「放射能」を消すことはできない。言葉の本来の意味で言えば「除染」はできない。やっていることは汚染を別の場所に移す「移染」である。であるから汚れたものを入れるフレコンバッグが溜まる。移染できるとしても、住宅、学校、道路のごく一部だけ。山はもともと移染さえ

できない。従来の法令では100ベクレル以上の放射性物質は厳重に管理しなければならないが、国は8000ベクレル以下のものを全国の公共事業にばらまいてしまおうとしている。

溜まり続けるフレコンバッグ、解除できない原子力緊急事態宣言、それを理由に特措法を連発して事故から8年10か月以上たった今も、棄民を続けている。大地の汚染の多くはセシウム137で、半減期は30年、100年たっても汚染は10分の1にしかならない。日本は今後100年以上原子力緊急事態宣言に下に取り続けることになる。

しかし原子力マフィアはその事実を忘れさせよう画策し、国民の目を別のことに誘導しようとしている。それがオリンピックだ。日本国中がオリンピックに向かい、それに反対すると非国民であるかのように言われる。しかし、今なすべきは福島第一原子力発電所事故の収束と被害者の救済である。それをなさない国であるなら、私は喜んで非国民になろうとおもつ。

## 参加者からの声

# 子どもたちだけは被曝させたくないという覚悟

本西みつえ (江戸川区議・生活者ネットワーク)

小出裕章さんの「東電福島・放射能汚染の拡大とオリンピック」の講演会、社会がオリンピックに浮かれる中、沢山の人が集まりました。

しかし、アンダーコントロールと言われている福島原発は全然そんな状態ではありません。9年経った今でも、炉心がどうなっているのか誰にもわからない状況に変わりはなない。

◆◆◆◆◆  
今も原子力「緊急事態宣言」は続いています。100年経っても続きます。毎日大量の汚染水がたまり続け、もう10万トン以上も溜まっています。トリチウムを含んだ汚染水は、処理水と呼ばれるが汚染水そのものです。

◆◆◆◆◆  
かつては平米あたり4万ベクレルが放射線管理区域とさ

れ、その中では食へることも、トイレさえも使えず、その空間から外に出るときは放射性物質に汚染されていないか厳重に管理されていました。しかしそれが今は大地ごと汚染されています。私たちはその中で生活しています。政府は民を捨てたのです。

◆◆◆◆◆  
小出さんは「生態系の循環の中で一度放出した中ではもう放射能はあるものとなる。避けることはできない。大人は責任を取って食へるべき。きちんと何ベクレルと表示される」と良い。ただし、子どもたちには「安全な物を」と答えていました。

◆◆◆◆◆  
そう。私たち大人は責任を持って食へるべき。安全な食べ物子どもに回したい。

◆◆◆◆◆  
あの時、覚悟した、子どもたちだけは被曝させたくないという思い。これから結婚し、子どもを産むであろう女性に、被曝させたくないと思っただあの原発事故。

◆◆◆◆◆  
原発はいらない。東京オリンピックはやっぱり喜べない。会場からこんな質問が。「福島産の食べ物はどう考えるべきか」

●子どもたちの心のリフレッシュ事業報告

民謡を歌って踊って楽しんでね！

理事 薄井 清美

文化出前公演

2019年  
11月18日～19日

- 訪問先：18日（月）  
いわき市  
・鹿島さくらんぼ保育園（100人）  
・好間保育所（60人）
- 訪問先：19日（火）  
・泉保育所（70人）  
・工房阿列布（120人）



\*公演者：右 若狭さちさん  
左 上領亘さん

今年度の文化出前公演は昨年と同様、若狭さちさんと上領 亘さんの民謡ワークショップで、園児たちや自立支援障障施設の通所の人たちと交流をしました。

会津出身の若狭さちさんは民謡を現代風にアレンジしたライブなどで活躍しているアーティストですが子どもたちとの交流は昨年からです。歌や踊りを中心とした触れ合いは年齢を超えて楽しむことができ、大変好評でした。

18日のいわき市鹿島町のさくらんぼ保育園は自然食材を使った食育や開放的な保育方針を掲げており、元気いっぱいな園児や父母たち約100人が迎えてくれました。

民謡を初めて聞く園児たちは、歌だけでなく美しい着物が盛んに若狭さんに触れられていました。震災を知らずに生まれてきた子どもたち

の姿に、感慨深い思いがしました。

午後はさくらんぼ保育園の姉妹園である好間保育所を訪問しました。

台風19号の被害が甚大だったところにあり、事務所も園庭も水に浸かってしまいました。職員さんと父母たちで3日後に見事に再開したそうです。

翌日の19日は歴史が古い木造校舎を持つ泉保育園と昨年も伺った内郷の障害者施設「工房阿列布（オリーブ）」に伺いました。

阿列布では秋祭りとしての公式行事となり、近隣の人た

ちも含めて120人が参加しました。上領さんの太鼓や若狭さんの歌は華やかな舞台となり、大変喜ばれました。



ワークショップは最後に必ず盆踊りが入ります。みんなです踊って歌うことで心が開放されます。子どもも大人もみんな一緒に踊り、私も暖かい気持ちになりました。

震災から9年が経とうとしています。心の復興はまだまだ完全とは言えない状態です。多様な文化に触れることで子どもたちの五感が育つことを願います。

この文化公演は私たちNPOの特色でもあります。可能な限り、今後も続けていきたい企画の一つとなりました。

# 市民による自発的な活動の育成をめざして

10月19日～20日に計画していたふくしまツアーは台風の被害を考慮して延期とし、20万円を一般財団法人ふくしま百年基金に寄付をしました。福島県内でサポートしている立場から、現状を報告していただきました。

一般財団法人ふくしま百年基金 代表理事 山崎 庸貴

## ◆ 台風被害と助成活動

2019年10月に発生した「台風19号」は、福島県内にも甚大な被害を及ぼしました。2020年1月28日の福島県発表によると、その被害は死者32名、重軽傷者59名、避難者1923名、住宅全壊1466棟、半壊12380棟、一部損壊6773棟、床上浸水1158棟、床下浸水446棟に及びます（いずれも調査中）。東日本大震災・福島第一原発事故の爪痕が未だ色濃く残る福島を襲った災害は、復興途上の被災地に二重の苦しみを与える結果となっていました。

「ふくしま百年基金」はこの災害における被災者・被災地支援活動をバックアップするため、少しでも早くそして柔軟な視点での支援活動を推進するため、発災翌日の10月14日から寄付募集を、翌15日から助成事業募集を開始しました。2020年1月28日現在、867万4657円のご寄付を預かりし、このご寄付を原資に302万2100円の資金助成を実施しています。資金助成活動は現在も継続しています。ふくしま支援・人と文化ネットワーク様からも20万円のご寄付をお預かりしており、心からの感謝を申し上げます。次第です。

## ◆ 「ふくしま百年基金」とは？

「ふくしま百年基金」は、コミュニティ財団と呼ばれる種類の財団法人です。コミュニティ財団とは、地域を単位とする組織としての「地域性」と、特定の企業や個人、行政機関などが設立したものではない、市民立の組織である「市民性」を特徴とする財団法人のことです。「ふくしま百年基金」はその名の通り、福島という地域の社会課題解決を目的とした組織であり、設立に際しては180名（ネット募金を通じた寄付者はのべ1763名）の個人や団体・企業からご寄付をお

預かりして設立しています。

## ◆ 設立の背景

福島を取り巻く復興課題・地域課題が、震災から間もなく9年となる現在もなお、複雑化・複合化が進んでいることが挙げられます。避難生活の固定化が進み、今なお3万人を超える方々が避難生活を継続しています。事故が発生した原発の廃炉は進捗が芳しくなく、先のない状況が続いています。

## ◆ これからに向けて

市民による自発的な活動を育成し、複雑化・複合化が進む復興課題に対応する。そのために寄付を中心とした様々な社会的資金の循環を創り出し、この先というものが、ふくしま百年基金の理念であり役割であると考えています。これからも、沢山のの方々にご指導・ご支援をいただきながら、活動を展開して参りたいと考えております。応援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

◎【銀行振込】 東邦銀行 本店  
普通預金 口座番号：3860819  
口座名義：一般財団法人ふくしま百年基金  
代表理事 山崎庸貴 ※読みは「のぶよし」  
◎【郵便振替】 口座番号：02220-3-142813  
口座名義：一般財団法人ふくしま百年基金  
◎また、下記ホームページよりご寄付いただければ、領収書の発行なども対応いたします。  
<https://fukushimasaigai.jp/>

# 忘れてはいけないフクシマのまじと

NPO法人「WE21かながわ」 小橋聡枝

## 今だに人気のない町

WE21かながわは、設立20周年を迎えました。関わって下さったすべての方々に感謝

するとともに、より有意義な20周年をとの思いから、福島ツアーを企画しました。

10月23日、24日はいわき市が大きな被害にあった台風19号とすぐ後の集中豪雨に挟まれた2日間でした。

訪問一日目は、私たちの支援先でもある認定NPO法人「いわき放射能市民測定室 たらちね」を訪ねました。道中のバスの中からは、緑豊か



廃炉資料館の前で



列をなす災害処理のダンプカー

な森や林が見えませんでした（その木や葉には当時の放射能が残っているとのこと）。

舗装された道路には緑の旗を付けた災害処理のダンプカーが列をなし、使えなくなつた田や畑には不釣り合いなソーラーパネル（東京の企業

所有）が置かれ、あちこちにフレコンバッグが並んでいました。

道路わきの家屋からは今にも人が出てきそうな気がしましたが、セイタカアワダチソウやスギが生い茂っているさまは、人気がない、無人の町を表していました。

## 原発の場に立ちて

2日目は朝早くから第一原発の見学に出発。「いわきおでんとSUN」の里見喜生さんのガイドで普段知ることが出来ない真実を知ることが出来ました。

まず、立派な廃炉資料館でのレクチャー、館内見学、厳しい手続きの後ベストを着て線量計を持ち東電のバスで構内をまわり、いつもテレビで見ている1号機から4号機を目の前にした時は、あの日のことが思い出され、胸が締め付けられる思いでした。

もうすぐ汚染水の貯蔵タンクが一杯になるので、放射性物質トリチウムが残留する水

を海洋放出する方向だと聞いています。この方法は世界中、どこでもやっているとの説明に怒りを覚えました。

最後のアンケートには「再稼働絶対反対、原発要らない」と書きました。

日々色々なことが起こり、人の記憶、関心はすぐに薄れてしまいます。けれども決して忘れてはいけないことがあるという事を学んだ2日間でした。

私たちは福島を忘れません。また、行きますね。

# 台風 19 号といわき

ふくしま発…泣いて、笑って、怒って、生きる！

いわき市 涙活ふくしま代表 猪狩弘之



## ◎ 惨状、警報・・・

2019年10月12日台風19号は我がいわき市も襲い甚大な打撃を受けた。  
夏井川、好間川など9か所が決壊し約6千世帯が床上床下浸水し、9名の尊い命が失われた。

12日夜長男一家6人が、ほ

どなくして同じく市内の二男家族4人も避難して来た。日付が変わった頃テレビは台風が福島県沖へ抜けたと報じたが、平・平窪地区が大変な状況と聞き、朝方長男は自宅と車がどつぷりと水に浸り、光景が一変しているのを見た。

さらに平浄水場も水没し4万世帯が断水、市内の約半数近くが約2週間飲み水はもとよりトイレ・風呂も使えず、ましてや浸水家の泥水も洗い流せなかった。百歳の方や80代90代高齢者は眠っている中で水にのまれた。台風襲来に18時頃には布団に入って寝てしまったらしい。

スマホの防災メールばかりが鳴り続けた。一方、消防車、消防団、パトカー、市広報車、地域からの避難呼びかけ喚起は殆どなかった。早くから有線放送やサイレンを鳴らし続ければ高齢者の命も、何千台という車両水没も免れたのではないか。

## ◎ ボランティア、支援物資、課題・・・

いち早くボランティアする人もいた。いち早く支援物資

を届ける人もいた。とても大事で素晴らしいことだ。しかしそもそも災害救助、支援復興は本来行政や県、国、政治が担うべきものでありそのためにも納税している。その主体や責任体制がなければ非常時には機能しなくなる。報道は「ボランティア・支援物資不足で復旧が進まない」というが本末転倒であり、権力の責任回避擁護か付度なのか社会風潮への誤誘導目論見が透けてくる。

課題は深刻で山積だ。地球温暖化、防災対策、治山治水、警報、避難、誘導、高齢者子ども、障がい者、支援、予算、罹災受付、早期決済、仮設・災害住宅、支援物資、学校、罹災ゴミ処理・・・今年も台風シーズンがやってくる。今だ何らの補修工事もされていない夏井川などに再び豪雨襲ってきたら・・・政治の責任は重い。

農林業、水産業、河川、道路、家屋、商業など今回の台風被害は数千億円といわれる。アベノミクスなる実体のない方便はやめ、防災対策に税金を投入していれば被害額を

大幅に超える効果が生み出せていたはず。こんな何の成果もない欺瞞自公内閣は国益に反する。今回の台風被害治山治水手抜きは人災だ。

## ◎ 北の空より

南の海を・・・

19年度防衛予算は過去最高の5兆2千6百億だが、防災関係予算は前年分合わせても2兆4千億円であり、防衛費の半分以上だ。一方で今後益々自然災害発生が予測されより大規模になるといふ。

北の空からの脅威を煽るより、南の海から襲ってくる台風への備えが何よりも重要なことは誰でも分かることだ。戦争を煽りトランプの言うままに戦闘機買わされるのでなく、防災装備を進め防衛省を防災省へ、自衛隊を災害救助隊へ、再編することが急務である。

国及び内閣には、国民の生命と財産を守る義務がある。しかし安倍内閣は「自分とお友達の生命と財産を守る」とことしか念頭にない。我々の選択は真の国民のための政府をつくることしかない。

## 2020年度定期総会開催と講演会のお知らせ

- 開催日：2020年5月10日（日）
- 会場：本郷文化フォーラム  
（文京区本郷3-29-10 飯島ビル1階）  
TEL：03-3818-6671
- 時間：総会 13時～14時30分  
※総会終了後、講演会を行います。

### ◆講演会 「常磐線、運転再開の真実」

14時45分～16時45分

- 講演者 飛田晋秀さん（写真家）

### <プロフィール>

1947年福島県三春町生まれのカメラマン。日本の職人を被写体とし、96年ごろから三春町をテーマに「三

春情景」「三春の職人」などの個展を開催。

3・11後は福島県内の撮影を続け、写真展や講演会を国内外で開催している。

## 会費・寄付金振り込みのお願い

### ◆会費・寄付金の振り込み

#### <振込先>

郵便振替口座

番号：00260-7-108912

名義：ふくしま支援・人と文化ネットワーク

※お手数でも、振り込み用紙の「通信欄」に会費・寄付の区別をご記入ください。

また、振込料金はご負担していただきますようお願い申し上げます。



いわき市選出の森雅子法務大臣に聞かせたい講談があります。その昔、磐城商工会議所の皆さんと取り組んだ磐城平藩主、安藤信正の「安藤のこま結び」です。この安藤公、地元では「お城に火をつけて逃げた殿様」と不名誉をかこっています。しかし、実は混乱の幕末に井伊大老の後をうけ、今の総理大臣、外務大臣法務大臣の三役を兼務。総理大臣としては公武合体を実現させ、外務大臣としては小笠原諸島を日本の領地

## 「安藤のこま結び」

### 神田香織のティータイム



と定め、またハリスやヒュースケンなども対等に交渉し外国公使たちから厚い信頼を得た人物なのです。子ども頃、鶴を殺した科で死罪となった農民に深く同情し、罪と罰について考えを巡らしながら成長。法務大臣になると、「動乱の幕末に罪を犯したとしてもどれほどの責任が問えるのか」と人道主義を貫き、一人も処刑してないのです。そのため編み出した方法が「安藤のこま結び」というわけで4月18日の「神田香織一門会」で披露しますので、ぜひお運びください。



安藤信正公銅像  
いわき市松が岡公園

安藤公はその後、坂下門で浪士の襲撃にあい、傷を包帯で隠し激務をこなしますが「敵に背を向けて背中を切られた、武士の恥」と悪評がたち失脚させられます。これは幕府を弱体化させるための薩長改革派の陰謀といわれています。磐城に帰城した彼を待っていたのは戊辰戦争、「孫氏の兵法」にのっとり敵に渡さないために平城に火をつけて仙台へ退却したのでした。生きていたら今年200歳。公文書破棄、税金私物化、国会軽視：官僚や政府与党の脱落ぶりが目に余る。森大臣、地元の政治家が登場しないかな。安藤公の政治手腕を範として長州出身の首相に付度せずどうか国民のために働いてください！